

日本大学 文理学部資料館



Nihon University
College of Humanities & Sciences MUSEUM

目次

I	資料館の沿革	…2
II	主な収蔵資料	…3
III	令和4年度資料の収集	…4
IV	令和4年度資料の収蔵・保存・修復	…6
V	「学芸員コース」の実習	…6
VI	調査・研究と刊行物	…7
VII	資料館ホームページとデジタルミュージアム	…7
VIII	展示会活動	…8
	令和4年度展示会報告：日独交流 160 年記念展－軍事協力を超えて－	…8
	令和4年度展示会報告：はじめての文理学部&資料館 2022	…9
	令和4年度展示会報告：発掘 NOW!	…10
	令和4年度展示会報告：活火山・浅間山展	…11
	令和4年度イベント活動報告	…12
	平成18年度～令和4年度展示会の記録	…13
IX	令和4年度学芸員活動報告	…14
	奥付	…15

I 資料館の沿革

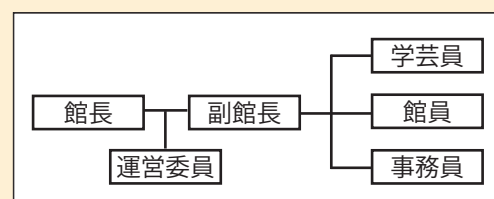
日本大学は、明治22（1889）年に日本法律学校として誕生し、わが国の近代国家の成立に向け法典へんさん編纂に尽力した、時の司法大臣・山田あきよし顕義（1844－1892）を学祖とします。その後、明治36（1903）年に日本大学と改称され、現在に至っています。

日本大学文理学部は、明治34（1901）年にその前身となる高等師範科（のち高等師範部）が、日本法律学校に設けられたところより始まります。その後、法文学部、文学部と進展を重ね、昭和33（1958）年に文学部に教養部を吸収し、理系の学科等を加え文理学部としてスタートしました。現在の文理学部は、人文系・社会系・理学系の3系統18学科から構成される複合学部として発展を続けており、平成23（2011）年には学部創設110周年を迎えました。

日本大学文理学部資料館の沿革は、文理学部の歴史の上に成り立っています。文理学部は120年近い歴史の中で、研究や教育のために文学、歴史学、考古学、地理学、自然科学に関する諸資料を収集し、さらに保管や展示、調査・研究を継続的に行ってきました。当館は、これら多年にわたり収集されてきた諸資料を学生、教職員及び一般の利用に供することを目的として、平成18（2006）年4月1日に設立され、平成28（2016）年には創設10周年を迎えました。

また、当館は平成19（2007）年3月29日付で、東京都教育委員会より博物館相当施設の指定を受けています（『東京都公報』第13915号、東京都教育委員会告示第30号）。

資料館の組織



日本大学文理学部資料館は文理学部の付属機関です。

Ⅱ 主な収蔵資料

当館では、文献資料・考古資料・地図資料をはじめとして諸分野に関する資料を保存し、展示等を通して広く内外に公開しています。また、さらなる継続的な収集活動を進めており、令和2（2020）年3月現在、収蔵資料の総点数は約2万5000点を数えます。

文献資料



『枕草子』 天正本 上・中・下 写本3冊

平安時代に宮中に仕えた女房である清少納言が著した随筆の写本です。清少納言自身が記した原本は、存在が確認されていませんが、これは、現在4系統ある『枕草子』の諸本のうち、三巻本と呼ばれる系統の写本です。

「天正本」という通称は、写本の奥書に、「申請楊明御本写之／天正十一年二月八日令校合畢」とあることからです。下巻の最後、白紙の部分に、中郵秋香（1841-1910：国文学者、歌人）から武藤元信（1854-1918：国文学者、枕草子研究者）へ、この写本を献呈した時の辞が、署名と朱角印付きで記されています。なお、本写本は、昭和10（1935）年に文部省から重要美術品の認定を受けています。



『小式部』 写本 1冊

『小式部』は室町時代末に成立したと推察されている御伽草子^{おとぎぞうし}で、平安時代の歌人である、小式部内侍（和泉式部の娘）が詠んだとされる和歌を題材とした説話を集めた、歌人伝説物語です。

当館収蔵品は、小式部だけの物語で構成される別本系統の本文を有し、奈良絵と呼ばれる挿絵が7枚あります。

奈良絵には、泥絵具を用いた素朴で類型的なものや、金銀を多用した極彩色の土佐絵風のもの等があります。

※御伽草子：室町時代から江戸時代初期にかけてつくられた短編の物語草子の総称。

考古資料



人物埴輪

茨城県筑西市 女方古墳群出土

古墳時代、古墳造りとともに墳丘に樹立される埴輪も全国へ広がりました。埴輪には大きく区分して円筒埴輪と、形象埴輪（人物、動物、家形、器財等の種類）があります。片手をあげている人物埴輪は、近年の発掘調査と研究から、馬形埴輪とセットになる馬曳ぎを表わしたものとも考えられ、手をあげているのは馬の手綱をひく姿と思われま



縄文土器

青森県出土（尾崎元春氏寄贈）・岩手県御明神遺跡出土

縄文時代の集落遺跡からは必ずと言っていいほど土器が出土します。土器は、生活の必需品として使われていた物でした。当館収蔵の考古資料には、受贈されたものや、発掘調査によって収集された東北地方出土の縄文時代晩期の土器があります。土器には様々な形態がありますが、こちらの土器は小形の鉢に高台を取り付けた台付鉢です。

Ⅲ 令和4年度資料の収集

当館では、既存の収蔵資料をもとにした系統的な収集計画のもと、さらなる調査・研究活動に利用でき、今後の展示資料として有効に活用できる資料を選定し、継続的な収集活動を進めています。

令和4年度は本学の教員より「唐沢俊樹関係文書」の寄贈、そして一般の方より「満洲國警察官募集ポスター」の寄贈がありました。

唐沢俊樹は、昭和戦前～戦中期に警察畑の要職を歴任し、「新官僚」の1人として日本近現代史では知られている人物です。「唐沢俊樹関係文書」は①決戦非常措置要綱の立案・制定に関する資料群、②時局懇談会に関する資料群、③映画統制に関する資料群の主に3つに分けられ、当時の政治事情がわかるものです。

「満洲國警察官募集」は満洲国治安部警務司が1930～1940年代に日本国内で満洲国警務司（警察官）を募集するために作製されたポスターで、戦前・戦中期の日本のプロパガンダ政策を知ることができる資料です。

また、本学の元教員より「早田卓次氏貸与資料」の寄託がありました。

寄贈資料一覧

資料群名	資料種別	資料名	法量	備考
唐沢俊樹関係文書	文書	長日銀行への借用書一式	29cm×20cm×13cm	古川隆久・戸ノ下達也 2021 「資料紹介 唐沢俊樹関係文書 について」『研究紀要』第102 号 日本大学文理学部人文科学 研究所
唐沢俊樹関係文書	文書	就職希望者名簿	25.7cm×18.5cm×9cm	古川隆久・戸ノ下達也 2021 「資料紹介 唐沢俊樹関係文書 について」『研究紀要』第102 号 日本大学文理学部人文科学 研究所
唐沢俊樹関係文書	文書	珪肺病に関する資料一式	25.5cm×19.9cm×1.5cm	古川隆久・戸ノ下達也 2021 「資料紹介 唐沢俊樹関係文書 について」『研究紀要』第102 号 日本大学文理学部人文科学 研究所
唐沢俊樹関係文書	文書	第八十三議会（臨時）答弁資料	28cm×18cm×2.2cm	古川隆久・戸ノ下達也 2021 「資料紹介 唐沢俊樹関係文書 について」『研究紀要』第102 号 日本大学文理学部人文科学 研究所
唐沢俊樹関係文書	文書	蘇錫文市長の言付要領	28cm×18cm×2.2cm	古川隆久・戸ノ下達也 2021 「資料紹介 唐沢俊樹関係文書 について」『研究紀要』第102 号 日本大学文理学部人文科学 研究所
唐沢俊樹関係文書	文書	大日本映画協会役員名簿	27.5cm×20.5cm×2cm	古川隆久・戸ノ下達也 2021 「資料紹介 唐沢俊樹関係文書 について」『研究紀要』第102 号 日本大学文理学部人文科学 研究所

資料群名	資料種別	資料名	法量	備考
唐沢俊樹関連文書	文書	辞令書	30cm×20.5cm×2cm	古川隆久・戸ノ下達也 2021 「資料紹介 唐沢俊樹関係文書 について」『研究紀要』第102 号 日本大学文理学部人文科学 研究所
唐沢俊樹関連文書	文書	官報	32cm×22cm×0.5cm	古川隆久・戸ノ下達也 2021 「資料紹介 唐沢俊樹関係文書 について」『研究紀要』第102 号 日本大学文理学部人文科学 研究所
唐沢俊樹関連文書	文書	第79回帝国議会衆議院請願委 員会議録	30cm×21.3cm×2cm	古川隆久・戸ノ下達也 2021 「資料紹介 唐沢俊樹関係文書 について」『研究紀要』第102
唐沢俊樹関連文書	文書	興行場・料理店（業）整理関係 一式	26.5cm×15cm×1.7cm	古川隆久・戸ノ下達也 2021 「資料紹介 唐沢俊樹関係文書 について」『研究紀要』第102 号 日本大学文理学部人文科学 研究所
唐沢俊樹関連文書	文書	決戦非常処置要項	26cm×17.5cm×0.3cm	古川隆久・戸ノ下達也 2021 「資料紹介 唐沢俊樹関係文書 について」『研究紀要』第102 号 日本大学文理学部人文科学 研究所
満州國警察官募集	ポスター	満州國警察官募集	52.2cm×76.5cm	

貸与資料一覧

資料群名	資料種別	資料名	法量	備考
早田卓次氏貸与資料	記念品	東京2020オリンピック競技大会 聖火リレートーチ	11.5cm×71cm	
早田卓次氏貸与資料	記念品	東京2020オリンピック競技大会 聖火ランナーユニフォーム	シャツ：41cm×75cm (肩幅×丈) パンツ：41cm×108cm	
早田卓次氏貸与資料	記念品	北京2008オリンピック競技大会 聖火ランナーユニフォーム	シャツ：41cm×71.5cm (肩幅×丈) ハーフパンツ：41cm× 54cm	

IV 令和4年度資料の収蔵・保存・修復

収蔵資料の管理は、博物館等の施設において重要な役割の一つです。当館収蔵資料は、主に和書等の文献資料と、地図資料・考古資料になります。当館ではその資料の材質ごとに収蔵する場所を変えており、各々の資料にとって最適な方法で保存しています。

文学・歴史学・地理学等の和書をはじめとして、文献資料や地図資料は紙や絹等で出来ています。それらは温湿度の影響を比較的受けやすいために、24時間空調管理の貴重書庫に保管しています。考古資料は本学の専門教員の指導の下、保管施設にて管理しています。

また当館では、収蔵資料をより良い状態で後世に受け継ぐために、専門の修復業者と協議し資料の修復も行っています。資料の損傷状況（亀裂・虫損・糊^{のり}離れ・剥^{はく}落^{らく}等）を確認し、修復の緊急性や展示と研究における活用頻度等を考慮して、順次修復を実施しています。

令和4年度は「古橋廣之進・遠藤幸雄氏関係資料」を修復しました。

資料群名	資料種別	資料名
古橋廣之進氏関係資料	写真	全米水上選手権大会を前にして
古橋廣之進氏関係資料	写真	握手する古橋、マーシャル両選手
古橋廣之進氏関係資料	記念品	1949年全米水上競技選手権トロフィー
古橋廣之進氏関係資料	記念品	斉藤巍洋盃
古橋廣之進氏関係資料	記念品	第1回日本スポーツ賞
古橋廣之進氏関係資料	記念品	日米豪交歓水上競技名古屋大会名古屋市長賞
遠藤幸雄氏関係資料	記念品	ローマ1960オリンピック競技大会賞状
遠藤幸雄氏関係資料	記念品	東京1964オリンピック競技大会賞状
遠藤幸雄氏関係資料	記念品	シンボル・オブ・リコグニッション
遠藤幸雄氏関係資料	記念品	東京1964オリンピック競技大会金メダル
遠藤幸雄氏関係資料	記念品	日本スポーツ賞

V 「学芸員コース」の実習

文理学部には、博物館業務にたずさわる学芸員の資格を取得できる「学芸員コース」があります。当館の展示室は、コースを履修する学生の実習の場としても活用されています。実習では、展示会の企画・準備の補助や、展示室の受付対応・展示解説・展示室内の環境整備等を行います。

また、当館は博物館相当施設の指定を受けており、別途、館務実習の受入れを行っています。



特別教室での実習風景



展示室での実習風景

VI 調査・研究と刊行物

当館では、各展示会の企画・準備において、展示資料の調査・研究を行っています。これらの活動は、本学の教員及び大学院生等の協力を得ることで成り立っています。

これら調査・研究の成果は、資料解説文が記載された展示パネルやキャプションだけでなく、展示室で無料配布している図録・リーフレット・パンフレット等の刊行物を通じて提供しています。また、当館では毎年、年報（当データ）をデジタル公開しており、前年度に開催した展示会やイベント等の活動報告を行っています。



過去の展示図録の一部



年報

VII 資料館ホームページとデジタルミュージアム

ホームページでは、館の概要・沿革や展示会の案内等がご覧いただけます。

また当館では、収蔵資料台帳のデータベース化、及びデジタル資料の作成とその管理・運用を推進しています。平成23（2011）年6月から、文理学部資料館「デジタルミュージアム」にて、一部収蔵資料のデジタル画像の一般公開を始めました。現在、公開している資料は以下の通りです。当館ホームページとあわせてご覧ください。

1. 二神コレクション（絵葉書）：二神照夫氏（1932－2016）が蒐集した戦前期の「満洲国」に関する絵葉書。中国黒竜江省牡丹江に関する絵葉書が中心。
2. 青地コレクション（絵葉書）：青地清彦氏（1919－1945）が「満洲国」の地質調査（1939－1941）に向かう過程で購入した、朝鮮と「満洲国」各地の絵葉書。
3. 考古資料：日本大学文理学部所蔵の一部を公開。
4. 亜東印画輯：戦前期に日本人が撮影した、中国・朝鮮半島・モンゴル地域等の自然風景・歴史的建造物等の写真を収めたアルバム。



「日本大学文理学部資料館ホームページ」
<https://chs.nihon-u.ac.jp/campus-life/kyogaku-s/museum/>



「デジタルミュージアム」
<http://ahj.chs.nihon-u.ac.jp/dm/>

VIII 展示会活動

日本大学文理学部資料館では、これまで平成 18 (2006) 年 6 月に展示会「日本の書物 かたち・とじかた」を開催して以来、年に 3 回から 5 回ほどの展示会活動を継続的に実施しています。

展示会のテーマは、大学・学部史をはじめとして、国文学・歴史学・地理学・自然科学等多岐に及び、多種多様な学科をもつ文理学部の特色を活かしています。また、展示会にあわせてギャラリートークや特別講演会等のイベントも企画し開催しています。

令和 4 (2022) 年度は、計 4 回の展示会を開催しました。以下に、実施した各展示会の詳細を報告します。

令和 4 年度 展示会報告

日独交流 160 年記念展 — 軍事協力を超えて —

会 期：令和 4 年 4 月 1 日 (金) ~ 4 月 28 日 (木)
主 催：日本大学文理学部
日本大学文理学部資料館
ドイツ連邦共和国大使館
共 催：日本大学文理学部ドイツ文学科

【展示図録の刊行】 なし

明治時代には軍事、司法、そして医療分野においてドイツから多くを学んだ日本でしたが、第一次世界大戦で両国は敵対し、第二次世界大戦では同盟を結び、戦後両国は自らの過去と向き合いながら、多国間協力を通して共に国際社会への復帰を目指してきました。今では同じ価値観を共有するパートナーとして、より平和な未来に向けて取り組みを続けています。

近代における日本とドイツの交流の契機となったのは、1861 年に日本とプロイセン王国間で調印された日普修好通商条約です。2021 年にはその調印から 160 周年を迎えました。これを記念して、日本にあるドイツ連邦共和国大使館 (以下、ドイツ大使館と称す) では

2021 年、オンライン展覧会「日独交流一六〇年 軍事協力を超えて」(会期：2021 年 7 月 26 日~現在)を開催しました。この展覧会は、鳴門市ドイツ館でも 2021 年 10 月 26 日から 11 月 21 日にかけてパネル展示が行われました。一方、日本大学文理学部ドイツ文学科では 2021 年、日独交流 160 周年を記念した学科企画授業を他学科にも開かれる形で行い、様々な専門分野の学生が集い、日本とドイツに関する学びをともに深めました。

本展示会では、本学の学生・教職員の皆さまが日本とドイツへの理解を一層深めることの一助となることを願い、ドイツ大使館の展覧会を主にパネルを使って文理学部資料館で開催いたしました。あわせて、本学ドイツ文学科の紹介も行い、大学でのドイツ研究の魅力を紹介しました。

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、学内に限定して公開



展示会の風景



ドイツ文学科紹介コーナー



会 期：令和4年7月17日（日）
主 催：日本大学文理学部・日本大学文理学部資料館

【展示会図録の刊行】 なし

文理学部には、前身の高等師範科・法文学部・予科文科を含めて120年近い歴史があり、その間に研究、教育のための資料として、文学、歴史学、考古学、地理学、自然科学に関する資料を収集し、その保管・研究を行ってきました。文理学部資料館は、それら多年にわたって収集されてきた諸資料を教職員、学生及び一般の利用に供することを目的として設立されました。

本展示会では、文理学部の歴史と貴重な所蔵資料を紹介しました。

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、夏季オープンキャンパス来場者に限定して公開



展示風景 1



展示風景 2




大講堂落成記念絵葉書



文学部旗

令和4年度 日本大学文理学部資料館 展示会

発掘NOW!



展示内容

- 1 発掘調査のながれ
- 2 土器がみつかる
- 3 土器をまとめる
- 4 出土土器をみる
- 5 出土遺物からわかること
- 6 まだまだある、出土遺物たち

入場無料

2022年9月23日(金)
～11月6日(日)

平日 10時～17時
土曜 10時～13時
休館日：日曜

主催：日本大学文理学部
日本大学文理学部資料館

発掘ってなに？
発掘でなにが判るの？

会場：日本大学文理学部資料館展示室（図書館階1階）
開館時間：平日10時～17時（土曜日は13時30分開館）
所在地：〒106-8505東京都港区赤坂1-23-40
TEL / FAX：03-0372-8090（資料館受付室直通）
交通案内：京王線 桜上木駅より徒歩8分
京王線・東武東上線 下高井戸駅より徒歩8分
ホームページ：https://chokubun.jp/entry/160/

日本大学文理学部資料館
Nihon University College of Humanities & Sciences MUSEUM

会期：令和4年9月23日（金）～11月6日（日）
主催：日本大学文理学部
日本大学文理学部資料館

【展示会図録の刊行】

『発掘 NOW!』
編集・発行：日本大学文理学部資料館
発行日：令和4年9月23日（金）
A4、フルカラー、16頁、800部発行

考古学の研究調査にとって必要不可欠な作業は発掘です。地中に眠っている研究資料を取り出すのが発掘ですが、それは珍奇なもの、金銭的に価値のあるものを掘り出す作業ではありません。出土した資料がどのように、どこから出土したのか、そのデータを得るのが目的です。

また現地（遺跡）での調査の後、出土したモノからどのようなデータがとりだせるのか、室内での整理作業を行います。そして現地と整理作業で得られたデータを公開（報告書の刊行）します。この報告書刊行で発掘調査は完了するのです。

そのため授業としてまた教員が実施した発掘調査の整理作業は、授業や授業の合間に校内で続けられています。本展示会ではそうした発掘調査とその魅力について紹介しました。

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、学内と秋季オープンキャンパス・桜麗祭来場者に限定して公開



展示風景 1



展示風景 2



展示風景 3



展示風景 4



会期：令和4年11月21日（月）～12月20日（火）
 主催：日本大学文理学部
 日本大学文理学部資料館
 協力：文理学部地球科学科
 浅間縄文ミュージアム
 やんば天明泥流ミュージアム
 嬭恋郷土資料館
 東京大学地震研究所
 気象庁浅間山火山防災防災連絡事務所
 上信越高原国立公園管理事務所
 浅間山北麓ジオパーク
 アジア航測株式会社
 千葉達朗
 堤隆

【展示会図録の刊行】

『活火山・浅間山展』

編集・発行：日本大学文理学部資料館

発行日：令和4年11月21日（月）

A4、フルカラー、32頁、800部発行

東西20 km以上の広がりを持つ烏帽子・浅間火山群は変化に富む景観を示し、多様な火山活動を繰り返してきたことを物語っています。その東端の活火山・前掛山（いわゆる浅間山）は約9400年前に活動を開始し、最近60年ほどは静穏であるものの、過去には大量にマグマを噴出する噴火を繰り返してきました。特に江戸時代の天明噴火は有名ですが、その活動末期に起きた謎の爆発が発端となって、北麓の鎌原村から関東平野に及ぶ広範囲で死者1500名以上におよぶ大規模な災害をもたらしています。

本企画展では、火山活動の歴史を概観した上で、天明噴火を中心に浅間山の活動の実態に焦点をあてました。特に鬼押出溶岩をもたらした最盛期のマグマ噴火や、甚大な被害をもたらした天明泥流に関する絵図は、写真などの映像記録のない時代の大変貴重な情報源であるため、中心的な展示資料の一つとして位置づけました。実際に天明噴火で降り積もった軽石の地層の剥ぎ取り試料と絵図の描写を対応できる展示構成としました。また浅間山は本邦における火山観測発祥の火山でもあり、防災・減災面での火山との向き合い方についても考えられる構成としました。

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、学内に限定して公開



展示風景



浅間山天明噴火降下堆積物剥ぎ取り資料

令和4年度 イベント活動報告

ギャラリートーク

例年展示会開催にあたり行っているギャラリートークですが、令和4年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のために行いませんでした。



過去のギャラリートークの様子

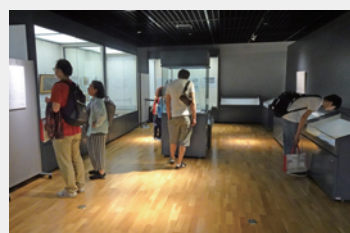
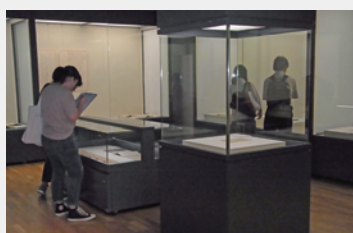


オープンキャンパス・桜麗祭

資料館では、文理学部が所蔵する貴重な資料を広く一般の方に公開するため、夏季・秋季オープンキャンパスと大学祭である桜麗祭の開催にあわせて、毎回展示会を行っています。その際、展示室入り口では、図録、及び館報の無料配布も行い、資料館のこれまでの取り組みについても紹介しています。

令和4年度は夏季オープンキャンパスでは「はじめての文理学部&資料館2022」を公開し、秋季オープンキャンパスと桜麗祭は「発掘NOW!」を公開しました。いずれの展示会も新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、各イベントの来場者に限定して公開しました。

過去のオープンキャンパスの様子



平成 18 年度～令和 4 年度 展示会の記録

年度	会期	展示会名	開館日数
平成18年度	6月13日～7月23日	日本の書物 かたち・とじかた	37
	9月20日～10月30日	古代探訪 ～いにしえのオホーツク～	35
	11月6日～11月16日	絢爛豪華な伝奇世界 ～幕末・明治期の合巻本～	11
	12月5日～12月25日	シルクロードの風・水・人 -日本に至る遥かな道-	21
平成19年度	4月2日～4月8日	桜の文化史	7
	4月23日～6月2日	書写材料と印刷文化展	20
	6月18日～7月28日	肉筆で見る近代文学の多彩な世界	37
	9月25日～11月5日	日本大学商学部構内の遺跡を掘る ～世田谷区大蔵遺跡第8次調査～	35
	11月15日～11月30日	体育学科創設50周年記念展示会 世界を魅了した日大文理のアスリート列伝	15
	12月8日～12月24日	江戸八百八町をあるく	17
平成20年度	4月24日～6月4日	『徒然草』 -兼好と古典文化-	29
	6月18日～7月28日	はにわまつり ～造形に込められた想い～	36
	9月26日～10月24日	旅-中古・中世日記紀行文学の世界-	23
	10月31日～11月28日	文理学部資料館・芸術資料館交流展 能面&狂言師～面のまなざし～	24
平成21年度	4月20日～5月13日	日本の書物 かたち・とじかた	14
	5月20日～6月25日	王朝歌物語の世界	32
	7月3日～7月31日	宇宙から見た地球の自然と災害	26
	10月6日～10月17日	写された満洲 ～デジタルアーカイブから甦る哈爾濱都市空間～	9
	10月30日～11月27日	芸術学部ORCNANA プロジェクト おどり衣裳のコスモロジー～日藝コレクション～展 -伝六代目尾上菊五郎の衣裳を中心に-	24
平成22年度	5月10日～7月30日	武笠文庫の和書～日本文学を中心に～	69
	9月27日～10月31日	華麗なる縄文～形態と文様～	33
	11月10日～11月19日	古代ローマの港町 オスティア	10
	12月1日～12月20日	日本大学文理学部資料館開設5周年記念展示会 資料館のあゆみと文理学部の歴史	17
平成23年度	5月23日～6月24日	近世文学資料展	28
	7月1日～7月30日	地球温暖化時代におけるヒートアイランド現象	28
	10月1日～10月30日	伊能図でみる東日本-東北地方を中心に-	24
	11月14日～12月20日	日本大学文理学部110周年記念展示会 Discovery!文理学部～向き合って、その先へ～	31
平成24年度	6月1日～7月23日	往来物の文化誌 -江戸時代の庶民教育-	45
	9月22日～9月23日	はじめての文理学部&資料館	2
	10月1日～11月4日	描かれた<満・蒙>-「帝国」創造の軌跡-	28
	11月19日～12月22日	わくわく古墳探検	34
平成25年度	4月1日～4月6日	はじめての文理学部&資料館	6
	5月27日～7月23日	中世文学資料展	52
	10月1日～11月4日	江戸・東京の風景 -地理写真を中心として-	29
	11月18日～12月21日	土器と生活-弥生・古墳時代の収蔵品から-	29
平成26年度	5月12日～7月21日	日本大学・考古学のあゆみ	63
	9月20日～10月18日	古典籍から見る日本の書	25
	11月1日～12月13日	写真と地図にみる江戸後期の風景	38

年度	会期	展示会名	開館日数
平成27年度	5月18日～6月6日	日本大学文理学部のあゆみ－学祖山田顕義の始動－	18
	6月22日～7月21日	謡本の世界－近世の出版文化と教養－	36
	10月5日～11月2日	現された「満洲国」－〈満・蒙〉影写の多様性と受容－	26
	11月16日～12月19日	写真で見る水辺の風景－都市近郊の昭和30年代を中心に－	31
平成28年度	4月25日～5月21日	日本大学文理学部資料館の「今」	19
	6月6日～7月22日	日大の発掘1－発掘実習の記録－	41
	9月18日	資料館パネル展示	1
	10月24日～12月23日	百人一首展	51
平成29年度	4月3日～4月8日	はじめての文理学部&資料館2017	6
	5月8日～7月22日	考古学所蔵品展－所蔵資料から見る日大の発掘－	67
	10月1日	資料館パネル展示	1
	10月23日～11月26日	王朝の物語展	31
	12月11日～12月23日	「満蒙」関係資料展 －記録化された「満洲」日本人の日常と記憶－	12
平成30年度	4月2日～4月7日	はじめての文理学部&資料館2018	6
	5月14日～6月9日	源氏物語展－読む・描く・広がる－	25
	7月14日～7月24日	想いをつなぐ炎－古代オリンピックから日本へ－ ストラウス・クリム氏所蔵 トーチ展	10
	9月25日～11月4日	形象化された〈満・蒙〉－日本大学文理学部所蔵 ビジュアル・メディアを中心として－	35
	11月9日～1月19日	クビナガリュウとアンモナイトの化石展 －白亜の大地に広がる北海道中川町から－	41
平成31年度 令和元年度	4月1日～4月24日	はじめての文理学部&資料館2019	21
	6月10日～7月22日	華ひらく王朝の和歌－勅撰三代集の世界－	38
	9月23日～10月18日	日本大学130年の軌跡－明治から令和へ－	22
	11月1日～12月21日	出張！大深山遺跡－山の縄紋コレクション－	45
令和2年度	8月14日～9月28日	文理学部スポーツのあゆみ	28
	3月1日～7月17日	1号館建築物語－1937年、それは夢のはじまり－	114
令和3年度	6月18日～7月17日	考古のひみつ－観て、比べて、驚く古きモノ－	26
	9月23日～10月30日	文理の宝・私の宝もの	31
令和4年度	4月1日～4月28日	日独交流160年記念展－軍事協力を超えて－	24
	7月17日	はじめての文理学部&資料館2022	1
	9月23日～11月6日	発掘NOW!	39
	11月21日～12月20日	活火山・浅間山展	26

※本パンフレットの編集は、土井裕介（日本大学文理学部資料館 学芸員）、平石冬馬（同 学芸員）が行った。

※当データ掲載の画像の無断転用を禁ずる。

IX 令和4年度学芸員調査研究報告

博物館法第四条4項に「学芸員は、博物館資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これと関連する事業についての専門的事項をつかさどる」と定められています。したがって、当資料館の学芸員も、展示業務だけでなく、調査研究を行っていく必要があります。

以下では、当資料館学芸員の令和4年度調査研究成果を報告します。

著者	発行年	タイトル	雑誌名	発行者
土井裕介	2023年	「展示会アンケートにおけるQRコードの活用－文理学部資料館の事例報告－」	『年次研究報告書』No.23	日本大学文理学部情報科学研究所
平石冬馬	2023年	「日本大学文理学部資料館の来館者データからみたポスターデザイン方法論の有効性について－3学系来館者の比較分析と理学系企画展の来館者モデルの提示－」	『年次研究報告書』No.23	日本大学文理学部情報科学研究所

利用案内 MUSEUM INFORMATION

開館時間

平日 10:00～17:00
土曜 10:00～13:00

休館日

日曜・祝祭日、大学の定める休日、館内整理日、
夏期・冬期・春期休暇期間

観覧料 無料

※展示会により開館時間や休館日が異なる場合がございますのでご了承下さい。
詳細は、各展示会のチラシ・ポスター、資料館のホームページ等でお知らせします。

お問い合わせ CONTACT US

所在地 〒156-8550
東京都世田谷区桜上水 3-25-40

電話・FAX 03-5317-8590

URL [https://chs.nihon-u.ac.jp/
campus-life/kyogaku-s/museum/](https://chs.nihon-u.ac.jp/campus-life/kyogaku-s/museum/)

交通案内 ACCESS

京王線をご利用の場合

桜上水駅または下高井戸駅下車 徒歩8分

東急世田谷線ご利用の場合

下高井戸駅下車 徒歩8分

令和5年度 展示会のお知らせ

- ① はじめての文理学部&資料館 2023 (令和5年4月1日～4月28日)
- ② 伊能図にみる江戸後期の日本の景観 (令和5年5月20日～7月20日)
- ③ 文理学部界隈でみられた昭和の風景 (令和5年10月30日～12月9日)
- ④ (仮)「満蒙」関係寄贈資料展 (令和6年1月10日～1月25日)

※新型コロナウイルス感染症拡大の状況に応じて、一般の方のご来場をご遠慮いただく場合や会期を変更する場合がございます。予めご了承ください。展示会の詳細につきましては、チラシ・ポスター等の広報物や資料館ホームページ (<https://chs.nihon-u.ac.jp/campus-life/kyogaku-s/museum/>) 等でお知らせいたします。



日本大学文理学部資料館

編集・発行：日本大学文理学部資料館

